

令和8年度(2026年度)総務常任委員会管内視察の概要

- 1 視察日 令和8年(2025年)7月10日(金)
- 2 視察者 総務常任委員会(8名)
松村秀逸(委員長)、立山大二朗(副委員長)、岩下栄一、
松田三郎、西聖一、高野洋介、高木健次、増永慎一郎

3 視察の概要

(1) 大観峰、阿蘇草原保全活動センター

阿蘇は、世界最大級の規模と明瞭な円形陥没地形を備えた迫力ある景観の火山カルデラと、火山カルデラという地形・地質の条件を克服・利用しながら伝統的な農業を維持し高い生産性をあげてきた人々の努力が作り上げた文化的景観である。

今回の視察では、阿蘇を一望できる場所である大観峰から阿蘇谷の全景を視察するとともに、阿蘇草原再生保全活動センター



において、阿蘇の草原の課題と維持・再生への取組み並びに阿蘇の世界文化遺産国内暫定一覧表入りまでの状況や現在の取組みについて説明を受け、施設を見学した。

阿蘇草原再生保全活動センターから、野焼きを実施する牧野組合の高齢化・後継者不足による担い手不足等により草原の維持管理が

困難になってきているが、草原は水源涵養力や山崩れを防ぐ防災減災、観光資源など多面的な機能がある。草原を守っていくため、今後は、より地域と連携し、草原を維持していく活動が必要との説明があった。

また、担当課から阿蘇の世界文化遺産国内一覧表入りまでの状況について、阿蘇の学術的検討と価値の更なる整理を行っているほか、世界文化遺産として、カルデラ地形やカルデラ地形に展開される草地・森林・居住地・農地の土地利用形態、野焼きなどの農業システムは阿蘇の価値を示すものである、さらに、世界文化遺産登録に向けて景観保全に取り組んでいるほか、機運醸成のための取組みや、国及び関係自治体に加え、民間団体とも連携し、官民一体で取組みを進めているとの説明があった。

(2) 防災消防航空センター

防災消防航空センターは、広域防災拠点として、大規模災害時に集結する災害関係ヘリの運用に必要な機能を有しており、警察航空隊基地との合築施設である。

今回の視察では、防災ヘリ運用上の関係機関との連携など具体的な活動状況や現在の課題などについて視察を行い、施設を見学した。

防災消防航空センターから、同センター航空隊は平成 13 年設立、主な活動は救急活動等であり、隊員は県内 12 消防本部から派遣されている、また同センターは平成 29 年 11 月運用開始され、県警航空隊とは日常の飛行予定等の情報共有による安全運航のほか、情報共有などを行っている。

令和 6 年中の消防防災ヘリ出動件数では、当センターの出動件数は 1 機体数の出動件数として全国の団体では 2 番目に多いものとなっている。本県の特徴として、ヘリ出動の内訳として救急活動が多いことがその要因となっている。

当センターでは、活動の精度を高めるため、各種訓練を行っているほか、広域連携として、九州各県の連携の下、大規模災害のヘリバース受援訓練を実施し、九州各県消防隊との連携も築いている。

令和 2 年 7 月豪雨災害を経験した隊員も現在は在籍していないため、日々「見える関係」を築いていくことが必要との説明があった。



(3) くまもとSDGsミライパーク

くまもとSDGsミライパークは、株式会社銀行肥後銀行が熊本国際空港株式会社の仮設ターミナルだった建物を刷新し令和 6 年秋に開業したビジターセンターの一部を賃借し、令和 7 年 4 月にグランドオープンした施設である。SDGsを実践的に学べる教育機会の提供や、企業のSDGsの取組みを発信する、日本初の企業連携型SDGs教育施設であり、銀行が運営している施設としても日本初である。

今回の視察では、施設の概要について説明を受けるとともに、出展企業各社の展示の案内を受け、各社のSDGsに係る取組みについて視察を行った。

株式会社肥後銀行から、同パークは仮設ターミナルであった建物をそのまま利用しており、建物そのものがSDGsであるほか、熊本県山鹿市で廃校になった小学校の机や椅子を再利用し、それらにアートペイントを施すなどしている。



また、同パークは小学校高学年から高校生までをターゲットとしているが、これからのSDGsは「知っている」から「実行する」へ、ワークショップで学び、展示ブースを見学することにより、「自分事」に落とし込んで実行することを施設の

目的としているとの説明があった。

さらに、各展示企業のブース見学を行い、各社のSDGs取組内容について1ブースごとに説明を受けながら、視察を行った。

(4) 空港周辺地

阿蘇くまもと空港アクセス鉄道は、肥後大津駅から阿蘇くまもと空港までをつなぐ延長6.8kmの鉄道整備に向け、次年度の事業着手に向けた準備を進めているところである。

今回の視察では、計画の概要説明並びに空港新駅と空港との位置関係などを担当課から説明を受け、現地周辺地で確認を行った。

